

研究者紹介

多世代・多セクター・多コミュニティの交流

地域に分散している多世代・多セクター・多コミュニティが自律的に交流し、個性を認め合い磨き合うことにより、地域はいきいきと動き始めるはず。そのしくみを実践的に考え出すことが、本研究の狙いです。身近なテーマのデザイン研究をみんなで進めましょう。

蓮見 孝
ハスミ タカシ
(研究代表者)



本研究を中心になってすすめる、スタッフの自己紹介です。



筑波大学附属病院「アート&デザイン」による療養環境改善プロジェクト(ADP)の作品「co-more-bi」(2007)



酒井 正幸
サカイ マサユキ
(研究分担者)

誰か故郷を思わざる

生まれたまち、住んでいるまちの暮らし、文化、産業、そして自然を、世代を越えて如何に循環・継承させていくのか？ 私たちはそのプログラムのデザインを多様な方々との交流を通じて進めていきます。



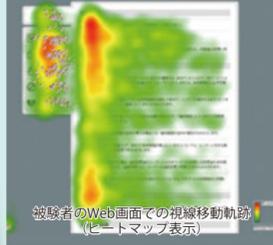
円山動物園リニューアルプロジェクト(2006年～)

私の研究キーワードは、数理統計手法による感性情報の評価・分析、情報デザイン、デザインの価値測定・分析です。本事業では、札幌市や道内市町村の住民意識・暮らし満足度などの調査分析を通して、地域への愛着・希望を探りたいと考えています。

城間 祥之
シロマ ヨシユキ
(研究分担者)



住民の地域への愛着・希望を探りたい



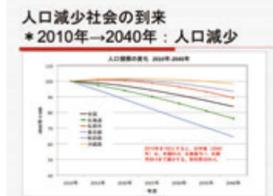
被験者のWeb画面での視線移動軌跡(ヒートマップ表示)



原 俊彦
ハラ トシヒコ
(研究分担者)

人口減少と超少子高齢化は止まらない。だからこそ！

長年にわたり地域人口の研究をしてきましたが、「人口減少と超少子高齢化は止まらない」というだけではダメだと思っています。「だからこそ、できること、すべきこと」をいっしょに考えてみませんか？



人口減少社会の到来
*2010年→2040年：人口減少

空間デザイン作品の制作を通じて、地域の風景を見直し、あらたなバリューを育みたい

地域にはさまざまな魅力が潜在しています。こと風景に限っても同じことが言えます。空間に関するデザイン作品、環境芸術作品を制作・設置し、普段気づきにくい地域の風景の魅力を知るきっかけの場づくりを試みます。

山田 良
ヤマダ リョウ
(研究分担者)



斉藤 雅也
サイトウ マサヤ
(研究分担者)

地域と学生が共に学び、元気になる条件を解明したい

大学は専門性を有し、地域は即実践が求められるが、両者が化学反応するための触媒(条件)が潜んでいるはず。それを地域と共に解き明かしたい。



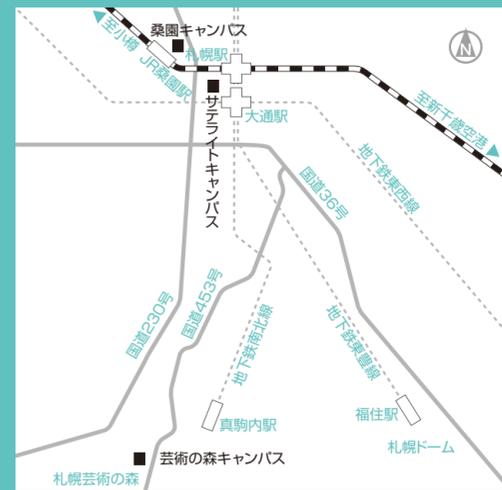
研究フィールド

全国で5番目の人口を有する北海道最大の都市「札幌市」の南区に札幌市立大学デザイン学部の芸術の森キャンパスがあります。本キャンパスを中心に、これまでも、以下に示す周辺市町村を

フィールドに研究教育活動を実施してまいりましたが、本事業では特に、有珠郡壮瞥町を中心とした洞爺湖周辺をフィールドにACP仮説を検証する研究的教育活動を実施致します。



- [1]札幌市
- [2]夕張市
- [3]三笠市
- [4]岩見沢市
- [5]寿都郡 寿都町
- [6]虻田郡 喜茂別町
- [7]沙流郡 平取町
- [8]有珠郡 壮瞥町



札幌市内



芸術の森キャンパス



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL:011-592-2300(代表) FAX:011-592-2369
URL:www.scu.ac.jp

【本研究に関するお問い合わせ】
公立大学法人 札幌市立大学 地域連携課気付 ACP事務局
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL:011-592-2574(直通) TEL:011-592-2300(代表)
E-MAIL:acp@scu.ac.jp



日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 研究課題番号:16H01803

「拡張キャンパス型地域連携」による過疎市町村の自律的創生デザイン研究

研究代表者:蓮見孝(札幌市立大学 デザイン学部 教授)



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

【本研究について】

本研究は、大学の機能や効用を活かした「拡張キャンパス型地域連携プログラム（以下 ACP と略記）」により、大都市の持つ資源やパワーを周辺過疎市町村に効果的に適用させるしくみづくりをめざすものです。周辺過疎市町村の自律的な活性化を促し、同時に大学における教育効果を高めるためには、どのような課題を解決し、どのようなプロセスを経るべきかを、ACP の実証実験により解明します。

研究対象フィールドは北海道地域とし、大都市として札幌市、周辺過疎市町村として有珠郡壮瞥町を取り上げます。具体的には札幌市内に立地する札幌市立大学とその連携関係にある大学、そして壮瞥町とその周辺市町の住民や産業界の連携による ACP の運用を通して、若年層を中心とした連携地域間の人的交流の促進、地域産業の活性化、住民のウェルネス向上を図ります。

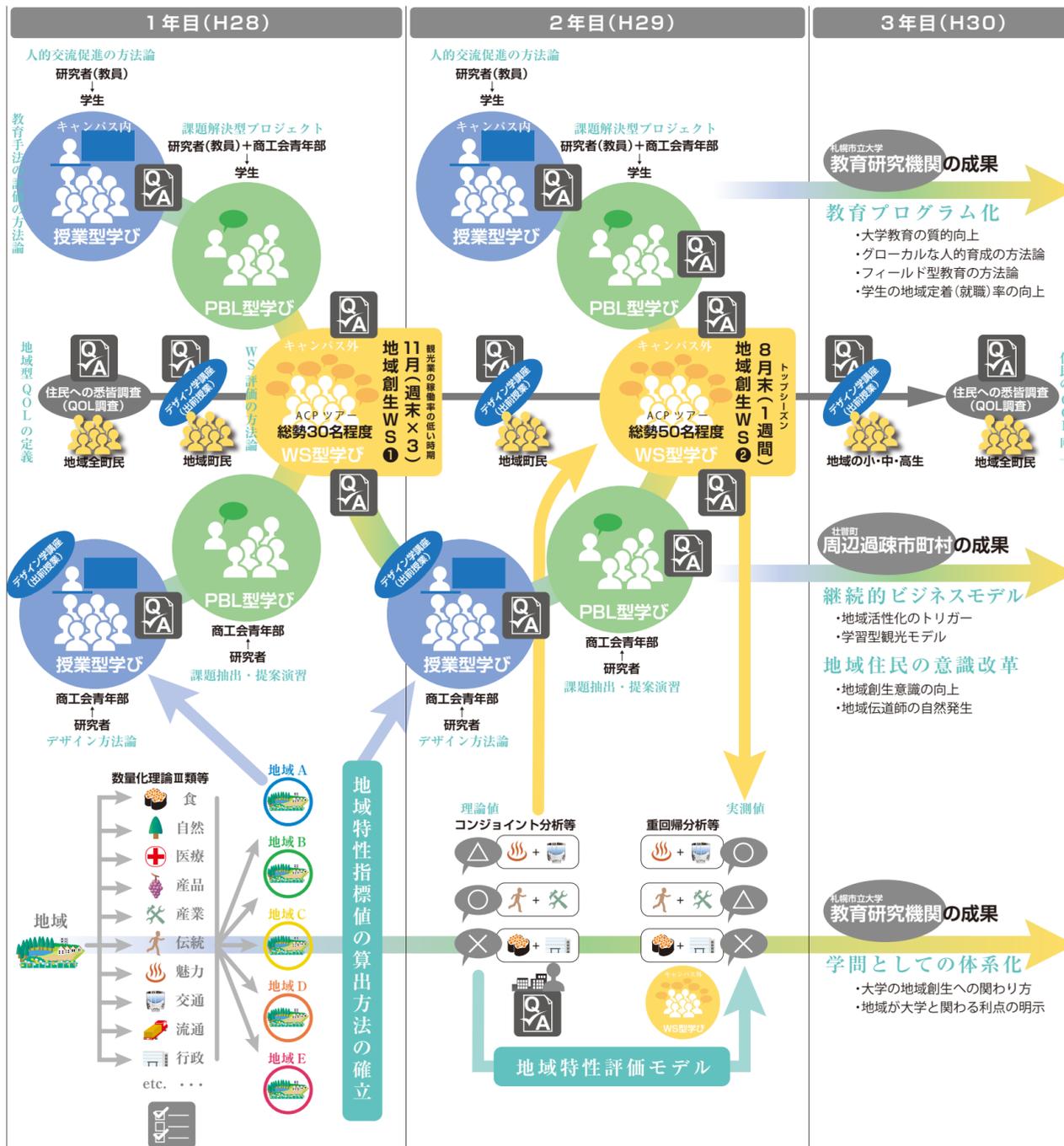
本研究で得られる成果は、札幌市立大学がめざす「地域創生デザイン学」の方法論の確立と体系化に活かします。

ACP : Augmented Campus Program

大都市の大学 札幌市立大学(学生)

北海道 周辺過疎市町村

大都市の大学 札幌市立大学(研究者)



持続可能な日本の基盤を創る 【地域創生デザイン学】の体系化

くに 風景からの故郷づくり

どんな地域にも、誇れる宝が埋もれています。そんな宝との特別なつながりが、地域を「故郷」へと変えていきます。住み手にとって当たり前になっている地域の誇りを掘り起こし、風景として共有することが故郷（くに）づくりの第一歩です。

上田 裕文 ウエダ ヒロフミ (研究分担者)

"Be Happy!"のしくみを 生み出したい

「環境心理学」と「建築計画」を専門にしています。人々のワクワクを科学的に理解し、地域の資源発見や人と人を繋げるお手伝いをしています。寿都町のコミュニティ・レストラン「風のはんや」(http://kazegohan.sakura.ne.jp)をプロデュースしました。

片山 めぐみ カタヤマ メグミ (研究分担者)

ともに・持続的に・幸福に生きる

金 秀敬 キム スーキョン (研究分担者)

感性価値・インクルーシブ・遊びに着目した情報と評価に関する研究を推進しています。(1) 地域プロジェクトを通じた連携と発展 (2) 「価値×体験」に基づく教育を通じたデザイン実現を目指しています。

人の何気ない言葉に潜む 本質的な意味を明らかにしたい

我々は「明るい音楽」などといった言葉で物事を表現しています。しかし、「明るい」は本来光の強さを表現する言葉です。私はこのような、人が何かを感じた時に表現する言葉が本質的にどのような意味を持っているのかを明らかにしたいと考えています。

矢久保 空遥 ヤクボ タカノブ (研究分担者)

学習効果や地域に対する魅力を対象とした 素直な印象を測りたい

私の研究キーワードは「感性評価」です。簡単に言えば、製品やサービスに対する「好き嫌い」を測ることです。本事業では、各種の教育効果や地域の魅力を対象に、学生や地域住民の皆様の素直な気持ちを測る手法の開発をしたいと考えています。

柿山 浩一郎 カキヤマ コウイチロウ (研究分担者)



【ロゴマークのコンセプト】

「ACP」のアルファベットをつけて、北海道の広大な自然を象徴する山、湖を形づくっています。

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 「拡張キャンパス型地域連携」による過疎市町村の自律的創生デザイン研究 (研究経費:27,800,000円) 研究代表者: 連見孝